

令和元年度自給飼料分析結果

齊藤武司・今雪幹也

The analysis result of the self-supplied feeds in the kagawa prefecture livestock experiment station. (2019.4~2020.3)

Takeshi SAITO, Mikiya IMAYUKI

要 約

県内の畜産農家が生産する自給飼料等について、一般成分分析による栄養価の評価と硝酸態窒素に関する安全性の検査を実施した。令和元年度（平成 31 年度）の分析点数は 35 点であった。自給飼料の種類としては、飼料用稲が 12 点（生草 1 点・サイレージ 11 点）、飼料用米（粳米）5 点であり、畜産農家における自給飼料生産は飼料用稲が中心となった。残りの 18 点は飼料作物（トウモロコシ 1 点・ソルガム 2 点・エンバク 2 点・ライ麦 1 点）が 6 点、牧草（イタリアンライグラス 6 点・スーダングラス 1 点・野草 5 点）12 点であった。また、硝酸態窒素分析は 20 点を実施した。内訳は飼料作物（トウモロコシ 1 点・ソルガム 2 点・エンバク 2 点・ライ麦 1 点）が 6 点、牧草（イタリアンライグラス 6 点・スーダングラス 1 点・野草 5 点）が 12 点であった。硝酸態窒素含有量については、飼料作物 2 点（ソルガム 1 点・ライ麦 1 点）が乾物中 1,000 mg/kg を超えたことから給与制限が必要であった。

緒 言

酪農及び肉用牛経営の安定に資するため、昭和 59 年度より自給飼料等の成分分析及び安全性の検査を実施し、飼料給与技術の改善及び指導を行っている。今回、令和元年度（平成 31 年度）に実施した自給飼料分析結果について報告する。

材料及び方法

平成 31 年 4 月 1 日から令和 2 年 3 月 31 日までに各農家から農業改良普及センターに提出された自給飼料等 35 点を検体とした。分析に供した検体は表 1 のとおりである。一般成分分析は、飼料安全法による飼料分析基準注解第三版に準ずる化学分析により実施した。（水分：135℃2 時間乾燥、粗たん白質：ケルダール法（ホウ酸溶液吸収法）、粗脂肪：ジエチルエーテル抽出法、粗繊維：静置法、粗灰分：580℃2 時間灰化）

また、安全性の検査は硝酸態窒素含量の分析（小型反射式光度計を用いた簡易分析法）を実施した。

表 1 検体の種類

区 分	形 態	点 数
トウモロコシ	サイレージ	1
ソルガム	生草	2
エンバク	生草	2
ライ麦	サイレージ	1
イタリアンライグラス	生草	3
	サイレージ	2
	乾草	1
スーダングラス	生草	1
野草	乾草	5
飼料用稲	生草	1
	サイレージ	11
飼料用米	モミ米	5
計	—	35

成績及び考察

一般成分の分析依頼のあった検体のうち、飼料用稲と飼料用米を合わせたサンプル数が 17 点で、自給飼料分析対象の主体となっている。トウモロコシ等の飼料作物や牧草は減少したが、未利用資源である河川敷野草の分析依頼が 5 点あり、自給飼料の多様化傾向も見られる。

成分分析結果については表 2 のとおりであり、同一自給飼料で一般成分分析の点数が 2 点以上のものを記載している。

一般成分を分析後、給与対象家畜の消化率に配慮し栄養価を算出した。飼料用稲（稲 W C S）及び飼料用米（モミ米）については、一般成分及び T D N（可消化養分総量）・D C P（可消化タンパク）のばらつきは比較的少ないのが近年の傾向と言え、県全体への飼料用稲の栽培技術が定着するにつれ、その相乗効果として、品質の向上も顕著となっている。

また、今年度の自給飼料等の硝酸態窒素含有量分析は 20 点の依頼があり、前年度に比べ大幅に増加した。本県では矮小な同一圃場で毎年飼料作物及び牧草が栽培されており、堆肥投入量が多くなり易い。これは、家畜への安全性を担保しておきたいという農家の意向が原因と言えよう。

硝酸態窒素分析を申請したサンプルにおいて、草種ではイタリアンライグラス 6 点、野草 5 点、エンバク 2 点、ソルガム 2 点であった。総じて、硝酸態窒素濃度が低下する傾向は継続しているが、最大値は 1,601 mg/kg（ライ麦・サイレージ）、次いで 1,150 mg/kg（ソルガム・生草）と高濃度のものも散見された。表 3 にその結果を記載した。

各地域の普及センターの畜産担当者が堆肥投入量に関する指導を強化した結果、飼料作物中の硝酸態窒素含量の低減が進んでいるが、今後も硝酸態窒素含有量分析は継続する予定である。

表 2 平成 30 年度自給飼料等成分分析結果

検体の種類	項目	原物水分	粗蛋白	粗脂肪	N F E	粗繊維	粗灰分	T D N	D C P
イタリアンライグラス（生草）	試料数	3	3	3	3	3	3	3	3
	最大値	80.4	10.3	2.6	70.4	28.2	10.4	75.6	6.0
	最小値	60.5	4.6	1.5	48.5	18.7	3.5	58.0	3.6
	平均値	73.7	6.8	1.9	62.9	22.5	5.9	69.6	4.6
	標準偏差値	9.3	2.5	0.5	10.2	4.1	3.2	8.2	1.0
エンバク（生草）	試料数	2	2	2	2	2	2	2	2
	最大値	79.2	6.0	1.8	62.8	27.0	5.7	61.0	3.3
	最小値	74.7	4.6	1.3	62.0	24.5	4.4	60.7	2.6
	平均値	77.0	5.3	1.5	62.4	25.7	5.0	60.8	2.9
	標準偏差値	2.3	0.7	0.3	0.4	1.2	0.7	0.1	0.4
ソルガム（生草）	試料数	2	2	2	2	2	2	2	2
	最大値	76.4	7.2	2.5	57.8	27.7	9.3	54.8	2.7
	最小値	69.2	6.5	1.8	55.4	27.1	7.3	54.6	2.6
	平均値	72.8	6.8	2.2	56.6	27.4	8.3	54.7	2.7
	標準偏差値	3.6	0.4	0.4	1.2	0.3	1.0	0.1	0.1
イタリアンライグラス（サイレージ）	試料数	2	2	2	2	2	2	2	2
	最大値	54.1	8.4	2.3	52.5	35.3	9.0	62.0	4.6
	最小値	11.9	4.5	1.3	47.0	33.3	7.8	56.8	2.4
	平均値	33.0	6.5	1.8	49.7	34.3	8.4	59.4	3.5
	標準偏差値	21.1	2.0	0.5	2.8	1.0	0.6	2.6	1.1
飼料用稲（サイレージ）	試料数	11	11	11	11	11	11	11	11
	最大値	75.9	12.7	3.7	57.2	39.0	18.6	57.2	6.9
	最小値	22.5	5.4	1.5	34.0	20.9	9.0	46.3	2.9
	平均値	56.2	7.9	2.5	43.4	31.7	14.6	50.8	4.3
	標準偏差値	17.3	1.9	0.7	7.6	5.4	3.3	3.1	1.1
野草（乾草）	試料数	5	5	5	5	5	5	5	5
	最大値	16.9	6.2	1.9	49.2	41.8	6.5	59.3	2.5
	最小値	9.2	4.4	1.3	45.7	37.7	5.0	58.3	1.8
	平均値	11.9	5.6	1.5	47.0	40.2	5.8	58.8	2.2
	標準偏差値	2.7	0.8	0.2	1.3	1.5	0.6	0.4	0.3
飼料用米（モミ米）	試料数	5	5	5	5	5	5	5	5
	最大値	15.3	8.5	2.7	79.7	7.7	5.0	80.5	6.0
	最小値	7.8	7.5	1.9	76.6	5.5	4.6	78.4	5.3
	平均値	12.1	8.0	2.2	78.4	6.7	4.8	79.4	5.7
	標準偏差値	2.5	0.3	0.4	1.2	0.9	0.2	0.8	0.2

注：水分については原物中％で、その他の成分は乾物中％で示した。

令和元年度自給飼料分析結果

表 3 自給飼料等の硝酸態窒素含有量分析結果

(単位：mg/kg)

検体の種類	試料数	最大値	最小値	平均値	標準偏差値
イタリアンライグラス（生草）	3	29	5	13	11
エンバク（生草）	2	24	5	15	10
ソルガム（生草）	2	1,150	5	578	573
イタリアンライグラス（サイレージ）	2	36	5	21	16
野草（乾草）	5	54	25	42	11

注 1：数値は乾物中表示、小数点以下は四捨五入。

注 2：サンプル数が 2 点以上の草種について記載。